

# こと ば れい はい み 言 葉 の 礼 拝

主日またはその他の祝日に聖餐式が行われない場合、朝の礼拝または夕の礼拝に代えて用いることができる。

ここで聖歌を用いてもよい。

## つど と も に 集 う

一同立つ。

司式者 ちち かみ しゆ 父なる神と主イエス・キリストからの<sup>めぐ</sup>恵みと<sup>へい</sup>平和が、  
みな 皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

## く あらた いの 悔い改めの祈り

司式者 かみ まえ みづか かえり つみ ゆる 神のみ前にひざまずいて、自らを省み、ともに罪の赦  
しを<sup>いの</sup>祈りましょう

ここで一同ひざまずく。共同懺悔（295 ページ）を用いるときは、ここです。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 あわ ふか かみ 憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことを  
し、しなければならぬことをせず、<sup>おも</sup>思いと、<sup>こと ば</sup>言葉と、  
おこな 行いによって、あなたと隣り人に対して多くの罪を犯  
しています。どうか<sup>つみぶか</sup>罪深いわたしたちを<sup>ゆる</sup>お赦しください

い。新あたしい命いのちに歩あゆみ、み心こころに従したがい、み栄さかえを現あらわす  
ことができますように、救すくい主ぬしイエス・キリストによっ  
てお願ねがいいたします アーメン

一同立つ。ここで聖歌を用いてもよい。式の初めに聖歌を用いたときは、ここで聖歌は用いない。

続いて次の〔Ⅰ〕、〔Ⅱ〕、〔Ⅲ〕、〔Ⅳ〕のうちの一つを歌いまたは唱える。

詩編第95編 (1-7 節) Psalm 95, 1-7

- 1 主しゅに向むかって喜よろこび歌うたい || 救すくいの岩いわに声こゑを上げよう
  - 2 感謝かんしゃに満みちてみ前まへに進すすみ || 賛美さんびの歌うたで神かみをたたえよう
  - 3 主しゅは偉大いだいな神かみ || すべての神かみにまさる王おう
  - 4 地ちの深ふかみは主しゅのみ手てに || 山やまの頂いただきもまた主しゅのもの
  - 5 海うみは神かみのもの、主しゅはこれを造つくられた || 乾かわいた地ちも主しゅは造つくられた
  - 6 身みを低ひくくして伏ふし拜おがみ || 造つくり主ぬし、主しゅのみ前まへにひざまずこう
  - 7 主しゅはわたしたちの神かみ、わたしたちは神かみの民たみ || わたしたちはその牧場まきばの民たみ、そのみ手ての羊ひつじ
- 栄光えいこうは || 父ちちと子こと聖霊せいれいに  
初めはじのように、今いまも || 世々よよに限りなく アーメン

〔Ⅱ〕

各節を3回ずつ繰り返してもよい。

主よ、<sup>あわ</sup>憐れみをお与えください

キリストよ、<sup>あわ</sup>憐れみをお与えください

主よ、<sup>あわ</sup>憐れみをお与えください

または

キリエ・エレイソン

キリスト・エレイソン

キリエ・エレイソン

<sup>とく</sup>特 <sup>とう</sup> 禱

司式者 <sup>しゅ</sup> 主は<sup>みな</sup>皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 <sup>いの</sup> 祈りましょう

ここで当日の特禱を用いる。

ともに聞<sup>き</sup>く

司式者 <sup>せいしょ</sup> 聖書の<sup>ことば</sup>み言葉を<sup>き</sup>聞きましょう

会衆は着席する。

<sup>だい</sup> 第1 <sup>ろうどく</sup> 朗読

朗読者または司式者は第1の聖書日課を朗読してもよい。朗読の前に「第1の朗読は——書第一章一節から」と言い、朗読後「第1の朗読を終わります」と言う。司式者は第1朗読、第2朗読、福音書の後に「いま聞いたみ言葉について黙想しましょう」と言って黙想の時をおいてもよい。

## し へん 詩 編

第1朗読に引き続いて定められた詩編を歌いまたは唱えてもよい。栄光の歌は用いない。

## だい ろうどく 第2朗読

朗読者または司式者は第2の聖書日課を朗読する。朗読の前後は、第1朗読にならう。

次に一同立つ。ここで聖歌を用いてもよい。復活日から8日間は復活の歌を用いてもよい。

## ふく いん しょ 福音書

朗読者または司式者は福音書を朗読する。朗読の前に「——による福音書第一章一節から」と言い、朗読後、「——による福音書を終わります」と言う。

## \* ことば わ ち あい み言葉の分かち合い

勸話または説教をする。

あるいは勧話または説教にかえて、当日のみ言葉を分かち合ってもよい。

## し と しんきょう 使徒信經

一同立って、次のうちの一つを歌いまたは唱える。

### 〔I〕

わたしは、<sup>てん ち</sup>天地の<sup>つく めし</sup>造り主、<sup>ぜんのう ちち</sup>全能の父である<sup>かみ しん</sup>神を信じます。

また、その<sup>ひと ご</sup>独り子、わたしたちの<sup>しゅ</sup>主イエス・<sup>しん</sup>キリストを信じます。

<sup>しゅ せいれい</sup>主は<sup>やど</sup>聖霊によって<sup>う</sup>宿り、<sup>う</sup>おとめマリヤから<sup>う</sup>生まれ、<sup>う</sup>ポンテオ・<sup>う</sup>ピ

<sup>くる う</sup>ラトのもとで<sup>じゅうじ か</sup>苦しみを<sup>し</sup>受け、<sup>し</sup>十字架につけられ、<sup>し</sup>死んで<sup>ほうむ</sup>葬られ、

<sup>くだ みっかめ しにん</sup>よみに<sup>てん</sup>降り、<sup>のぼ</sup>三日目に<sup>のぼ</sup>死人の<sup>のぼ</sup>うちから<sup>のぼ</sup>よみがえり、<sup>のぼ</sup>天に<sup>のぼ</sup>昇られま

<sup>ぜんのう ちち</sup>した。そして<sup>かみ みぎ ざ</sup>全能の父である<sup>かみ</sup>神の<sup>みぎ</sup>右に<sup>みぎ</sup>座しておられます。そこか

<sup>しゅ い</sup>ら<sup>ひと し</sup>主は<sup>ひと</sup>生きて<sup>さば</sup>いる人と<sup>こ</sup>死んだ人とを<sup>こ</sup>審く<sup>こ</sup>ために<sup>こ</sup>来られます。

また、<sup>せいれい しん</sup>聖霊を<sup>せい</sup>信じます。聖なる<sup>こうかい</sup>公会、<sup>せい と</sup>聖徒の<sup>まじ</sup>交わり、<sup>つみ ゆる</sup>罪の<sup>つみ</sup>赦し、

<sup>からだ</sup>体<sup>えいえん</sup>のよみがえり、<sup>いのち しん</sup>永遠の<sup>しん</sup>命を<sup>しん</sup>信じます アーメン

「平和の挨拶」は「派遣の唱和」の前に用いてもよい。

## へい わ あいさつ 平和の挨拶 The Peace

次の〔I〕、〔II〕のうちの一つを用いる。

### 〔I〕

司式者 <sup>しゅ</sup>主の<sup>へい わ</sup>平和が<sup>みな</sup>皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 平和の挨拶を交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

## 献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよい。

司式者 主の救いのみ業に感謝し、ともに賛美を献げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 すべてのものは主の賜物

一同 わたしたちは主から受けて主に献げたのです アーメン

## ともに祈る

次の代祷のうちの一つを用いる。

### 代 祷 I

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会

のため、また世界のために祈りましょう

ここで「——のために黙祷しましょう」と言って、感謝と代祷の題

目をあげ、会衆に黙祷を求めてもよい。また会衆に感謝と代祷の題目を求めてもよい。黙祷に代えて適当な祈りを用いてもよい。「ことに」のあとに適当な名前をあげてもよい。

司式者 <sup>かみ</sup>神よ、<sup>しゅ</sup>主の<sup>こうかい</sup>公会（ことに——）を<sup>つよ</sup>強めて、<sup>こ</sup>み子の<sup>わざ</sup>み業を  
<sup>おこな</sup>行わせてください。すべての<sup>せいしよく</sup>聖職と<sup>しんと</sup>信徒（ことにわ  
たしたちの<sup>しゅきょう</sup>主教——）を<sup>みちび</sup>導き、<sup>な</sup>み名を<sup>よ</sup>呼ぶ<sup>もの</sup>者を<sup>しゅ</sup>主の<sup>しん</sup>真  
<sup>り</sup>理と<sup>あい</sup>愛のうち<sup>いつち</sup>に一致させ、日々<sup>ひ</sup>主の<sup>びしゅ</sup>栄光をこの<sup>えいこう</sup>世に<sup>よ</sup>現  
<sup>もの</sup>す者とならせてください

会衆 <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>き</sup>お聞きください

各応唱の後に、しばらく黙祷してもよい。

司式者 <sup>かみ</sup>神よ、すべての<sup>くに</sup>国（ことに——）の<sup>ひと</sup>人びとに<sup>ちえ</sup>知恵を<sup>あた</sup>与え  
て<sup>せいぎ</sup>正義と<sup>へいわ</sup>平和の<sup>みち</sup>道に<sup>みちび</sup>導いてください。互いに<sup>たが</sup>尊敬する  
<sup>こころ</sup>心を与え、ともにすべての<sup>ひと</sup>人の<sup>さいわ</sup>幸いを<sup>もと</sup>求めさせてく  
ださい

会衆 <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>き</sup>お聞きください

司式者 <sup>かみ</sup>神よ、わたしたちと<sup>かぞく</sup>家族、すべての<sup>ゆうじん</sup>友人と<sup>とな</sup>隣り人（こと  
に——）に<sup>めぐ</sup>恵みを<sup>あた</sup>与え、ともに<sup>しゅ</sup>主を知り、<sup>し</sup>主に<sup>しゅ</sup>仕え、<sup>つか</sup>互  
<sup>あい</sup>いに愛することができるよう<sup>たが</sup>にしてください

会衆 <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>き</sup>お聞きください

司式者 <sup>かみ</sup>神よ、<sup>なや</sup>悩む<sup>ひと</sup>人、<sup>かな</sup>悲しむ<sup>ひと</sup>人、<sup>びょうき</sup>病気の<sup>ひと</sup>人、<sup>まず</sup>貧しい<sup>ひと</sup>人、その  
<sup>た</sup>他<sup>わざわ</sup>災いの中<sup>なか</sup>にある<sup>ひと</sup>人びと（ことに——）を<sup>かえり</sup>顧み、<sup>ちから</sup>み力

を<sup>あた</sup>与えて、<sup>ゆうき</sup>勇氣と<sup>きぼう</sup>希望を増し<sup>ま</sup>加え、<sup>しゅ</sup>主の<sup>すく</sup>救いの<sup>よろこ</sup>喜びに  
<sup>みちび</sup>導いてください

会衆 <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>き</sup>お聞きください

司式者 <sup>かみ</sup>神よ、<sup>よ</sup>世を<sup>き</sup>去った<sup>ひと</sup>すべての人（<sup>こと</sup>に——）を<sup>かえり</sup>顧み、  
<sup>かれ</sup>彼ら<sup>うへ</sup>の上に<sup>しゅ</sup>主の<sup>あい</sup>愛の<sup>み</sup>み<sup>むね</sup>旨を<sup>な</sup>成し<sup>と</sup>遂げて<sup>な</sup>ください。わた  
したちは、<sup>よ</sup>世<sup>よ</sup>々に<sup>しゅ</sup>主の<sup>あかしびと</sup>証人<sup>あた</sup>たちに<sup>しゅ</sup>与えられた<sup>しゅ</sup>主の<sup>めぐ</sup>恵み  
の<sup>な</sup>ゆえに、<sup>な</sup>み名<sup>な</sup>を<sup>な</sup>たたえます。どうか、わたしたちも、  
<sup>かれ</sup>彼ら<sup>まじ</sup>との<sup>まじ</sup>交わりを<sup>たも</sup>保ち、<sup>く</sup>ともに<sup>えいこう</sup>み国の<sup>えいこう</sup>栄光にあずから  
<sup>な</sup>せてください

一同 <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>こ</sup>これらの<sup>こ</sup>ことを<sup>こ</sup>み子<sup>こ</sup>イエス・<sup>こ</sup>キリスト<sup>こ</sup>によって<sup>お</sup>お  
<sup>ねが</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>ねが</sup>いた<sup>ねが</sup>します <sup>あー</sup>アメン

## <sup>しゅ</sup>主<sup>いの</sup>の<sup>いの</sup>祈<sup>いの</sup>り

一同ひざまずく。

司式者 <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>あわ</sup>憐れみ<sup>あ</sup>をお<sup>あ</sup>与え<sup>あ</sup>ください

会衆 <sup>あわ</sup>キリストよ、<sup>あ</sup>憐れみ<sup>あ</sup>をお<sup>あ</sup>与え<sup>あ</sup>ください

司式者 <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>あわ</sup>憐れみ<sup>あ</sup>をお<sup>あ</sup>与え<sup>あ</sup>ください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

<sup>てん</sup>天<sup>ちち</sup>におられるわたしたちの<sup>ちち</sup>父よ、

<sup>な</sup>み名<sup>せい</sup>が<sup>せい</sup>聖と<sup>せい</sup>されますように。



くに き  
み国が来ますように。

てん おこな ち おこな  
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。

ひ かて きょう あた  
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

つみ ひと  
わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

ゆうわく  
わたしたちを誘惑におちいらせず、

あく すく  
悪からお救いください。

くに ちから えいこう えいえん  
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

かん しゃ  
感 謝

司式者 ともに祈りましょう

次の〔Ⅰ〕、〔Ⅱ〕、〔Ⅲ〕のうちの一つを用いる。

〔Ⅰ〕

ぜんのう かみ じ ひ ちち ゆた めぐ あた  
全能の神、慈悲の父よ、わたしたちに豊かな恵みを与えてくだ

さることを感謝いたします。主はわたしたちを造り、わたした

ちを守り、この世のものを与え、ことに主イエス・キリストに

より世を贖って限りない愛を現し、恵みを受ける方法を示

し、後の世の栄光の望みを抱かせてくださいました。どうかこ

のもろもろの恵みに深く感じ、ただ言葉だけでなく、自らを献

げて主に仕え、生涯清い行いによって、主の栄光を現すこと

が出来ますように、主<sup>しゅ</sup>イエス・キリストによってお願い<sup>ねが</sup>いたします。誉<sup>ほま</sup>れと栄光<sup>えいこう</sup>が父<sup>ちち</sup>と子<sup>こ</sup>と聖霊<sup>せいれい</sup>に限りなくありますように  
アーメン

## 主<sup>しゅ</sup>とともに<sup>い</sup>行く

終わりに司式者は次のように言う。

主<sup>しゅ</sup>イエス・キリストの恵<sup>めぐ</sup>み、神<sup>かみ</sup>の愛<sup>あい</sup>、聖霊<sup>せいれい</sup>の交<sup>まじ</sup>わりが、わたしたちとともにありますように。アーメン (Ⅱコリント 13:13)

## 派遣<sup>ほけん</sup>の唱和<sup>しょうわ</sup>

一同立って、次の〔Ⅰ〕、〔Ⅱ〕のうちの一つを用いる。

### 〔Ⅰ〕

司式者 ハレルヤ、主<sup>しゅ</sup>とともに<sup>い</sup>行きましよう

会衆 ハレルヤ、主<sup>しゅ</sup>のみ<sup>な</sup>名<sup>な</sup>によって アーメン

ここで聖歌を用いてもよい。あるいは派遣の唱和の前に用いてもよい。